

別室登校支援について

不登校生徒の状況

対象生徒は、学習のつまずきが原因で小学校 6 年生の 2 学期から不登校になり、中学校 1 年生から 2 年生の 1 学期にかけて数日しか登校することができなかった。中学校 2 年生の夏休み明けに「学校には行きたいけれど教室に登校できない」というようになり、別室に通い始めた。

具体的な取組

○魅力ある学校づくりの推進

毎学期、全生徒対象にアンケートを実施し、生徒の実態に応じた支援を行っている。また、生徒が学習に対して、達成感を感じることができるよう、基礎的・基本的な内容をテスト形式で行い、理解につなげ、支援をしている。

○SCなどの関係機関等との連携

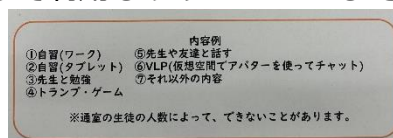
心理的な不安を抱えている不登校の生徒やその保護者について、担任やSC、SSWなどと情報を共有するとともに、面談などを積極的に勧め、組織的な対応を重ねた。

成果

「学校に配布物を取りに来る」、「別室登校をする」など、学校とつながりを継続するとともに、スモールステップを積み重ねていくことで、登校できるようになった。ボランティアの方に別室に入っていただくことによって、当該生徒が保護者や教員以外と関わる機会をつくることができた。

○生徒の居場所づくり

教室に入ることには抵抗感をもっている生徒が学校で安心して過ごすことができるよう別室を用意した。教室では自習を行ったり、教員及び教育活動アシスタントやボランティアと話をしたり、ゲームをしたりするなど様々である。本人が選択できるようにして、生徒が自分の居場所として利用しやすいようにしている。



○不登校対策委員会の設置及び支援会議の実施

生活指導部内に不登校対策委員会を設置し、情報の共有と短期的・長期的な指導方針について確認を行った。

課題

不登校生徒の状況が多様化し、それに伴う個別支援の方法が複雑化している。教室復帰を目指す他に、別室でも教室と同じ時間に同じ活動ができる環境を整えるために、教室が足りないことが課題である。